

みやぎっ子食農くらぶ ～令和2年度 事業報告書～

名称	非営利市民団体 みやぎっ子『食』・『農』くらぶ
所在地	宮城県仙台市宮城野区岡田新浜浦通西30番3
支援活動地区	宮城県仙台市内 主活動拠点:仙台市 市民センター・宮城野区岡田農地
役員	<ul style="list-style-type: none"> ・代表:阿部穰二(あべじょうじ)-農家・調理師・食育実践プランナー ・副代表:三浦ルミ(みうらるみ)-食育栄養コンサルタント ・副代表:佐藤秀信(さとうひでのぶ)-農家 ・役員(運営委員責任者):西條明日香(さいじょうあすか)-管理栄養士 ・役員(総務委員):伊丹慶一(いたみけいいち)-管理栄養士・調理師 ・役員(実務委員):鈴木瑞穂(すずきみずほ)-保育士・幼稚園教諭 ・役員(食育委員):崎野健一(さきのけんいち)-薬剤師
アドバイザー・サポートスタッフ	<ul style="list-style-type: none"> ・小野寺知香氏(調理師・パティシエ) ・高橋信壮氏(仙台大付属明成高校教諭・栄養士) ・高橋ひかり氏(保育士) 他、ボランティア登録スタッフ 17名
協力団体	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市知的障害者連絡協議会 ・高砂市民センター ・仙台大学付属明成高校 調理科 食の学人の会 ・新浜協業組合 他
会員数	会員数:68名(2021年3月31日時点)
活動理念	<ul style="list-style-type: none"> ・親子で楽しく学べる食育・農育活動の支援 ・活動を通し『親子の絆』が深まる思い出作りの場の提供 ・活動を通し『子供の学ぶ力』を養う教育支援
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ○親子料理教室 <ul style="list-style-type: none"> ・家族でともに学べる『食育活動』として料理教室を開催。地元食材や宮城の食文化を伝える教室の他、全国の郷土料理、旬の食材、流行りの料理を取り入れ子供たちが楽しく学べる教室の開催。 ○食育イベント活動 <ul style="list-style-type: none"> ・餅つきや果物狩り、農業体験、芋煮会などの食育イベント開催。 食育イベントのサポート、開催支援。 ○子供向け農作業体験 <ul style="list-style-type: none"> ・『食』の原点である“農業”の基本的な知識を、『体験』を通して会得し、親子でともに学べる場の提供。 ○親子がともに学べる場の提供。 <ul style="list-style-type: none"> ・食育イベントや地域交流行事、地域住民が交流できる場を『食』を通して提供。小さな子供とその家族が交流できる場の提供。 ○子供・その家族と食にかかわる企業・団体・生産者とのマッチング <ul style="list-style-type: none"> ・『食』に携わる諸団体と、会員のマッチング、交流が図れるための支援・イベントの開催。こども食堂との無償食育活動・食事支援。 ○『食育』支援 <ul style="list-style-type: none"> ・保育園、幼稚園、行政、地域団体、子供会等における食育イベントのサポート支援。ノウハウ・物品・サポートスタッフの派遣・提供。

みやぎっ子食農くらぶ ～活動内容～(令和2年度)

1. 令和2年度の活動テーマと実績

震災復興地を利用し農作業体験活動を実施し、『食育』、『こどもの経験拡大』、『人を呼び込む』の3つ達成する。宮城県にゆかりのある『伝統野菜』をテーマに取り上げ子供たちが住む宮城県の現状を伝え、農作業体験と食育体験を通して、親子でともに地域の環境についてを学んでもらい、新たな自然環境の創造と維持保全を行う。

活動は事前に計画を立て、講師・関係者・ボランティアスタッフへ活動内容を事前に確認していただき、実施内容に不備がないか？改善点がないかを確認してもらい、より安全性と効果が高い活動になるよう配慮するとともに、支援者間の共通理解を図る。

活動当日は、支援者が事前に集まり作業準備、活動内容の確認を行った後、参加者の受け入れ→活動の実施を行う。

活動後は、参加者の感想を聞く時間やアンケート等を行い、いただいた意見を支援者間でも共有し、次回以降の活動に反映させる。

活動内容を都度 SNS 等で報告するとともに、支援者間でのケース会議を定期的に行い、『活動の趣旨』・『活動の質』の評価を行う。

年間を通した活動内容のまとめや支援者視点での活動の進め方、参加者からの意見を取りまとめ、県内外の同種食育支援団体や子ども食堂、活動協力者へ報告を行い、活動の意義を高めていく。

2. 実績

活動対象者は、宮城県内に住む『親子』とし、3歳～中学生までとする。月に1～2回程度、農業の基礎や土づくり、野菜の播種、収穫、管理作業を体験できる『農作業体験』と、収穫した野菜を調理・試食する食育活動を実施。

震災復興地（農地）を利用『こどもの経験拡大』、『人を呼び込む』の3つのテーマを目標として、その活動に《環境保全》を意識づけた取り組みを行った。

宮城県にゆかりのある『伝統野菜』もテーマに取り上げ子供たちが住む宮城県の現状を伝え、農作業体験と食育体験を通して、親子でともに地域の環境についてを学んでもらい、新たな自然環境の創造と維持保全を行った。

※今年度は新型コロナウイルスの関係から活動内容の変更及び、活動前の感染防止対策を徹底した。

団体マニュアルもコロナ対策を盛り込むとともに、活動前の、スタッフ・ボラの体調管理・確認の徹底と、参加家族の検温・体調確認・消毒を行い、集団感染の予防にとっても配慮して活動をすすめた。

参加費を低額または無償にし、地元の子供たち・家族や、低所得者教育支援も担ってきた。

また、コロナウイルス禍で集まることができない子供たちへ向けて、『動画配信』や『自宅で取り組める農育』などの新たな試みも実施し、地域の福祉力向上にも寄与した。

3. 活動実施状況（実施時期、場所、参加者数、活動概要、成果、感想など）

月	日	内 容	参加者数			
			スタッフ 人数	会 員	一般 参加	合 計
2020 年 4月	18日	スタッフ・農業指導者打ち合わせ(オンラインにて)	21	0	0	21
	29日	圃場整備活動(スタッフ+講師1名)	6	0	0	6
	29日	地元住民へのあいさつ・活動の広報(一部郵送、メール等に変更)	3	0	0	3
	30日	令和2年度 第1回農作業体験イベント・動画を使った活動の説明	2	89	0	91
5月	4日	スタッフ・農業指導者による畑の中途管理、次回イベントの準備	6	0	0	6
	5日	第2回農作業体験(ミニトマト植え付け→参加者制限・時間差活動)	8	39	0	47
	15日	第3回農作業体験イベント(田植えのみ。地域交流会→は中止)	9	44	0	53
	23日	スタッフ研修(子ども支援に関する研修) →オンライン開催	14	0	0	14
6月	7日	スタッフ・農業指導者による畑の中途管理、休憩小屋の作成	11	7	0	18
	13日	第4回食育イベント(野外調理体験・収穫物を使った調理体験)	8	30	2	40
	14日	第5回農作業体験(人参・じゃがいも・玉ねぎ等の収穫)	8	29	0	37
	27日	スタッフ・農業指導者による畑の中途管理、休憩小屋の作成	9	0	0	9
7月	12日	第6回食育イベント(収穫物を使った料理教室)	8	28	0	36
	18日	スタッフによる畑の中途管理、小屋引っ越し作業等	14	0	0	14
	24日	第7回農作業体験(夏野菜(ナス・ニンジン等)の収穫・除草・中途管理作業)	8	34	6	48
	25日	スタッフ研修(2020年の方針変更と新規取り組みについての報告・会議)オンライン開催	14	0	0	14
8月	8日	スタッフ・農業指導者による畑の中途管理、次回イベントの準備	6	0	0	6
	10日	第8回食育イベント(畑で食育イベント)	8	40	4	52
	14日	第9回農業イベント(長ねぎ・白菜播種) 参加者制限、時間差開催	7	38	0	45
9月	5日	スタッフ・農業指導者による畑の中途管理、次回イベントの準備	6	0	0	6
	6日	第10回農作業体験(仙台白菜・秋野菜の播種)	8	29	16	53
	19日	スタッフ・農業指導者による畑の中途管理、次回イベントの準備	8	0	0	8
	20日	第11回食育イベント(野外調理体験・収穫物を使った調理体験)	8	37	0	45
	21日	会場視察、スタッフ・ボランティア支援力向上研修	9	0	0	9
10月	10日	第12回農作業体験・地域交流活動(稲刈り)	12	44	25	81
	17日	スタッフ・農業指導者による畑の中途管理、次回イベントの準備	6	0	0	6
	18日	第13回農作業体験・地域交流活動(にんにく・玉ねぎ植え付けイベント)	8	47	2	57
	25日	第14回農作業体験・地域交流活動(ラッキョウ植え付けイベント)	8	38	2	48
11月	1日	第15回農作業体験・地域交流活動(にんにく植え付けイベント)	7	51	7	65
	14日	第16回農作業体験(さつまいも収穫)	8	77	18	103
	23日	第17回農作業体験(次年度準備・堆肥づくり教室)	6	26	0	32
	29日	第18回食育イベント(感謝際・畑で食育・おふるまい)	13	49	11	73
12月	5日	第19回食育・農育イベント(食育・農育冬まつり)	16	58	49	123
	6日	スタッフ・農業指導者による畑の中途管理、次回イベントの準備	6	2	0	8
	26日	スタッフ・農業指導者による畑の中途管理、次回イベントの準備	9	6	0	15
	30日	スタッフによる環境整備活動、清掃、活動地域協力活動	16	9	0	25
2021 年 1月	16日	スタッフ・農業指導者による畑の中途管理、次回イベントの準備	6	0	0	6
	17日	第20回農育イベント 仙台曲がりネギ収穫イベント	8	19	2	29
	24日	スタッフ・農業指導者による畑の中途管理、次回イベントの準備	5	3	0	8
2021 年 2月	14日	スタッフによる畑の中途管理、作業ハウス環境整備	11	0	0	11
	20日	(動画配信)第20回農育イベント 畑の土づくりと冬の畑仕事解説動画配信	3	0	0	3
	21日	スタッフ・農業指導者による畑の中途管理、次回イベントの準備	6	0	0	6
2021 年 3月	28日	スタッフ総会・次年度計画、作業担当ごとに計画立案、予算請求、関係者まわり	16	0	0	16
	20日	第21回(少人数制)農育活動(長ねぎの収穫・出荷体験、春野菜の仕込み作業)	4	9	0	13
	21日	第22回(少人数制)農育活動(長ねぎの収穫・出荷体験、春野菜の仕込み作業)	4	7	6	17
	27日	第23回(少人数制)農育活動(長ねぎの収穫・出荷体験、春野菜の仕込み作業)	5	8	4	17
	28日	第24回(少人数制)農育活動(長ねぎの収穫・出荷体験、春野菜の仕込み作業)	4	6	2	12
合 計			396	903	156	1455

4月～

新型コロナウイルス蔓延のため、スタッフ・ボランティアの集合が難しかったため、早期にLINE や zoom を使ったオンライン会議にて活動方針や配慮事項、対策等の会議を実施。



30日には2020年度の活動の進め方や、畑の現状、農作業の基本などを動画にし、会員に向けて配信を行う。

リアルでの視聴者は89組あり、その後1か月間で500再生があった。



5月5日

農作業体験として『ミニトマト』の植え付け体験を実施。

コロナの影響で4月に実施予定であったが、地元農家の協力のもと、苗を確保し約100株のミニトマトの植え付けを体験してもらう。

感染予防の観点から、参加者を4グループに分け、マスク着用、時間制限等を行い安全性に配慮した。

参加者39名



5月15日

環境保護市民活動グループ『カントリーパーク新浜』の所有するビオトープ水田にて令和2年度の田植えを実施。

農薬・除草剤を一切利用せず、地下30メートルから組み上げる地下水を使った田んぼで、昆虫や水中生物の観察をしながら田植えを実施。

コロナ対策のため予定人数を半分にし、また、活動時間を分ける等の対策を行いながら安全性を考慮した農育体験を実施した。

参加者44名



6月13日

食育・野外調理体験を実施。

参加者とともにじゃがいも収穫やミニトマトの作業管理を行い、その後、収穫したてのじゃがいもを野外で調理し、家族で試食する体験を行う。

密にならない食事の距離や環境をつくり、子供たち全員が調理体験できるよう配慮した。

参加者32名



6月14日

農作業体験として野菜の収穫体験を実施。

室内での食育体験の実施が難しい状況のため、野外の農作業へ振替を行い、回数が減らないよう活動の組み換えを行っていった。

じゃがいも・人参・玉ねぎ等、普段子供たちになじみのある野菜の収穫体験を基本に、じゃがいもの試食や、野菜の成長過程のお話、超減農薬栽培と虫たちの関係性、環境保全の取り組みなどを知ってもらった。

参加者29名



7月12日

畑で収穫した野菜を使った料理教室の実施。

令和2年初の室内での調理活動を実施。

コロナ禍のため実施の判断がとても難しい状況であったが、市中感染者がゼロとなり、市民センターの利用も可能となったため実施することとなった。

自分たちが栽培を手掛けた野菜の調理という事で子供たちも思い入れが強く、栽培から収穫、自分の口に入るまでの一連作業を体験し食育力向上に大きくつながった。

参加者28名



7月24日

朝からみんなで草むしりをし、収穫・保管していた野菜の洗浄や選定作業をして、その後は、茄子・人参の収穫をしてもらいました。グループを3つに分け、1回あたりの参加人数を制限し、1グループごとに手厚く教えることができコロナ禍でのデメリットをプラスに変える取り組みとなりました。立派に育ったナスの収穫など、子供たちもとてもうれしそうにしていました。

参加者40名



8月10日

ハウス栽培のトマトやナス、ピーマンを利用し、畑でピザを焼き食べてみる食農体験イベントを実施。

生地自分たちでこねて、発酵を待つ間に野菜を収穫。生地を伸ばしてトッピング、その上に収穫したばかりの野菜を乗せて焼いて食べる!!という、当団体の活動ならではの食の楽しみを味わってもらいイベントを実施。集合時間の調整や時間差で活動していただくことで、食農イベントの実施をしながら安全性の確保にも努める。

参加者44名



8月14日

宮城県にゆかりの深い『白菜』と『曲がりネギ』の植え付け体験を実施。助成金で購入した『ネギ播種機』を利用し、子供たちが自分の力で約500本の苗を植える!!体験を実施。子供一人につき500本の苗を予定していたが、あまりの楽しさに何度も植え付けをやりた!!との声上がり、スタッフが播種予定の苗もすべて子供たちが植え付けをするほど、子供たちにとって魅力のある作業だと実感できる時間となった。

参加者34名



9月6日

仙台白菜&曲がりネギの農作業体験日和♪

宮城を語るうえで外せない野菜は色々ありますが、その中でもこの2つは絶対に外せない!!!

それは、『曲がりネギ』と『仙台白菜』です。

仙台白菜は、日清戦争で中国から持ち帰られた種を宮城県の松島諸島で栽培し、その品種が今の日本の白菜の基礎となりました、

曲がりネギは、まっすぐに育ったネギをわざと曲げて風味を強くする栽培法で、宮城県民の冬の代表的な野菜として欠かせません!

そんな宮城県民にゆかりのある野菜を子供たちに栽培してもらうべく今回イベントを行いました!

白菜は、宮城県の種苗店『渡辺採種場』さんが開発した『冬の祭典』というもので、『囲い』という作業をすることで越冬が可能です!

曲がりネギは、4月に昨年の種を使って育てていた、宮城県の品種『余目(あまるめ)』を子供たちに収穫していただき、そのまま『やとい』という作業を体験していただきました。



9月20日

野外調理体験・畑の野菜を使った食育イベント!

今日は、畑で、宮城・山形の郷土料理『芋煮』を作りました!!

芋煮の材料、里芋・大根・人参・長ネギは、全て畑で収穫したもので、今日も、畑から直接、大根やニンジン、長ネギなどを抜いてもらい、洗浄やカットを子供たちに担当してもらいました!

味付けに使う『味噌』も手作り!!!

去年畑で収穫し、仕込んでいた仙台味噌がちょうど仕上がったので味見も兼ねて使いました。

採りたての新鮮で風味抜群の野菜と手作り無添加の味噌の愛称はばっちり!!

猛暑が終わり、風が少し冷たくなってきたこの頃の畑で、心も体も温まりました!!

岩手の農家さんからホワイトコーンを送ってもらったので、一緒に味見をしてもらいました!!

あまりの美味しさにみんな感動!!

来年はこのホワイトコーンを植えようと思い、1つ食べずにとっておきました!

1年後が楽しみ♪



10月10日

令和2年度の『稲刈り』出来ました!!!

今年はコロナ問題で色々な計画が予定通りに進んでいません。

夏～秋にかけて予定されていた『お祭り』関係もすべてなくなってしまい、子供たちの体験の場がほぼすべて消滅でした。

秋のメインイベント『稲刈り』も実施できるかどうか、ギリギリまで調整・交渉していたのですが、今回、共同開催していたカントリーパーク新浜さんの強力なバックアップにより、無事に稲刈りを行うことができたのです!!

今年の田んぼは『完全無農薬』で育てられました。

除草剤も殺虫剤も使っていない田んぼは、虫や小さな生き物の宝庫!!

カエルにオケラ、トンボにカニ。色々な生き物とともに稲刈りを行うこととなりました。

当日は朝に雨が降り、『中止になるか!!!』と心配したのですが、開始時間が近づくにつれ雨雲がどんどんなくなり、開始とともに雨が上がるという奇跡的な状況に!!

子供たち、は小さな生き物を見つけるたびにテンションが上がり、その元気な様子を微笑ましく見つめる親や地域の方たち。

何千年も続いている『稲作』という農文化の基礎を、コロナ禍でも体験出来た子供たちは幸せ者です!!

乾燥も機械を使わず天日干しにする農法で、今までは、刈ったものをすぐにコンバインに入れてましたが、今年は、1つの束にして竹の棒にかけていく。

親子が刈り取り、たばねたものを、地域の味いちゃん達に渡し掛けていく。

なんか素敵な光景でした!!



10月18日

にんにくと玉ねぎを植える農作業体験をしました!

コロナ禍で人数制限がどうしても発生してしまいます。また、一度に多くの人数を受け入れるのが難しい!! どうしよう!!

「そーだ! 家族がいつでも好きなタイミングで農作業できる環境を作ればいいんだ!!」

と思いついちゃったので、家族専用の畑を用意し、年間を通して野菜の栽培を家族の自由な時間に出来るような取り組みを始めることにしました!!

昨年度、『長ネギ』は試験的に実施しましたが、今回は『玉ねぎ』と『にんにく』です。マルチシート張るため、長ネギよりも格段に除草の手間が減り、野菜の成長も楽しめるようになります!!

イベントの参加の際に、自分の専用区画を見ながら管理作業をしたり、イベント外でも買い物などのついでに寄ってもらい、親子で畑の様子を観察しつつ、野菜の成長を楽しめます!!

コロナの終焉がまだまだ先になりそうなので、このような『家族専用区画』を増やして、“家族単位”でも農育を楽しめる環境の整備を今後も進めていきたいと思えます!!



10月25日

秋を感じる農作業と畑で焼き芋♪

秋が深まり、すっかり冬の訪れを感じました。肌寒かったけど、子供たちはとっても元気です!!!!

来週、青森県の田子町からにんにく専門農家の先生が来て、にんにくの植え付けを教えてくれる予定なので、今日は、その圃場の準備をしがてら、にんにくと同じ時期に収穫できる『ラッキョウ』を植え付けしました!!

その後は、みんながお待ちかねの『さつま芋掘り』です。

このさつま芋の苗も、今年のコロナ騒動の関係で、いつもお願いしている種苗店では手配が出来ず、探し回り、やっと青森で見つけることが出来ました。

その繋がりもあり、にんにく農家さんと出会い、その方が実際に仙台に来てくれて講師までしてくれるという、コロナ禍ならではの新たなつながりにも発展しました!

サツマイモ掘りは子供たちも、親御さんもとても期待していたようで、申し込みの数も凄く、人数制限開催の限界数まで参加してもらいました!!

植え付けから数か月、畑にスタッフ・ボラも入れない期間があり、生育にとっても心配がりましたが、ちょうどよいサイズのさつま芋がたくさん採れました!!!

親がスコップで土を持ち上げ、子供が芋のつるを引っ張り収穫!!と、まさに『親子でともに!』といった素敵な作業♪

昼には、2週間前に掘って熟成させていたさつま芋を『焼き芋』にし、長ネギたっぷりのネギ汁とともに皆さんにふるまいました!!

少しひんやりとしてきた時期に、親子で一緒に汗をかき、親子で一緒に温かい焼き芋と汁を食べる!!

子供たちにとっても思い出と心に残る時間になったんじゃないかな??



11月1日

にんにく栽培の専門家を青森からお呼びしました!

青森県の田子町と言えば、全国的にも知られた『にんにく』の産地。

そんな本場から先生をお呼びして、仙台の子供たちに、本場の最前線で日々努力されている農家さんの『熱い思い』を知って、学んでもらうイベントを実施しました。

先生の名前は『みやむー』(笑)
愛称ですが、とてもすごい人です!!

おじいさんが育てていた種を使い、昔ながらの超減農薬にんにく栽培を目指し、数あるにんにく農家の中でもトップクラスの知名度と人気があります!!

熱い思いを持ち、色々と学び知識が豊富で、様々な人とのかわりの中から、宮城の子供たちへもその思いをふんだんに伝えてくれました!!!

先生が栽培している土地と、今回植え付けをした土地は全然違います。

もー、まったく違う土地。

しかし、この震災の津波被害が甚大だった土地に、みやむー先生の種が蒔かれ、仙台のこともたちとの繋がりが出来たことはきっと未来につながるはず!!

お昼には、先生の育てにんにくを使ったガーリックライスと、仙台の畑で育てた白菜とのコラボ、にんにく白菜バター汁を食べ、先生の畑の様子や、年間の作業の様子を見せてもらい、楽しい時間を過ごしました!!



12月5日

・今年1年を締めくくべく、素敵な冬まつり&食農感謝祭をしましたよ☆

畑で育てた野菜や、地元の農家さんが育てている野菜を子供たちに輪投げでゲットしてもらおうコーナーや、ジョージの作っている仙台ネギのプレゼント、自家製野菜をたっぷり使ったビーフシチューやネギ汁が食べられるコーナー、ちょっと早いクリスマスプレゼントの配布コーナーなど、様々なお楽しみブースを作り、日ごろ参加してくれる皆様へ感謝を込めたお祭りを実施しました!!

今年はコロナの影響で様々なイベントが無くなり、子供たちの学びの機会も減りました。

そんな時だからこそ『安全対策』を徹底して、年の瀬に、子供たちに素敵な思い出を残してもらいたい!!というスタッフの想いが集まり実施できました!!

参加してくれた方、お手伝いしてくれた方、食材等の提供をして下さった皆さん。本当にありがとうございます!!



2021年1月～3月までにに関して

コロナウィルスの全国的な感染者数の増加と、スタッフ・ボランティアからの不安を感じるという声が上がったため、大人数で集まるイベントを中止とし、2～3家族の少人数での活動に切り替えました。

1時間単位で活動を区切り、参加者が同じ場所を共有しない体制をとるとともに、スタッフも家族ごとに担当者を変え、万が一の際に、どのスタッフが担当したのかをはっきりさせ、また、スタッフによる蔓延が起きないように活動内容を変更。

冬季のため、次年度の畑づくりをメインの活動とし、堆肥のすきこみ作業や有機肥料づくり、活動場所のメンテナンス等を行いました。

3月に入り、県内の感染者割合が高くなり、非常事態宣言の発令もあったため、予定していたネギ収穫祭イベントが中止となり、その影響で1万本近い長ネギの廃棄危機もありましたが、現状をSNSで訴えたところ全国の多くの方が購入を希望してくださり、この事態を食育・農育と絡め、家族単位での収穫・箱詰め・出荷体験を兼ねた活動としました。

こども達も、農業が色々な影響を受け仕事として厳しい現状を感じたようですが、その状況下でも、全国の多くの方の支援があり、自分たちが全国の方に注目されていると知り、張り切って活動をしている姿が印象的でした。

